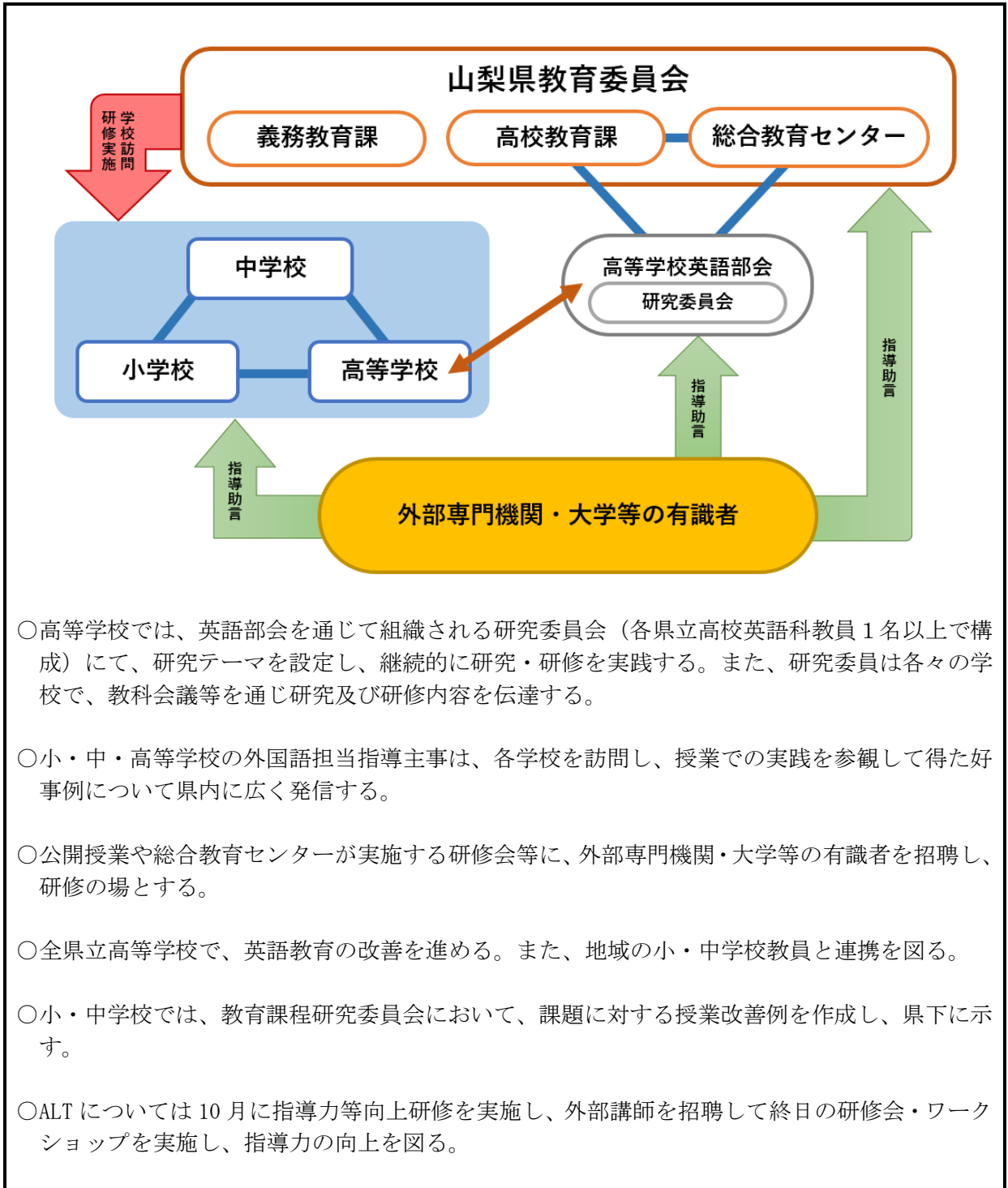


# 山梨県英語教育改善プラン

## 実施内容

## (1) 研修体制の概要



## (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

## ○「英語教育実施状況調査」を踏まえた現状

- 求められる英語力を有する教員の割合は、高等学校で76.3%、中学校で31.6%である。高等学校と中学校の両校種とも増加したものの、継続的な取組が求められる。
- 求められる英語力を有する生徒の割合は、高等学校で44.7%、中学校で35.4%である。高等学校では増加しているが、中学校において微減となり、調査対象である学年以前からの継続的な取組が求められる。

- CAN-DO リスト形式による学習到達目標の設定については、高等学校で100%、中学校で85.0%である。中学校においては微減している。両校種において、公表している割合が低いため、継続した取組が求められる。
- 生徒の言語活動の実施については、高等学校で50.9%、中学校で83.1%である。中学校では大きく増加している。一方、高等学校では大きく減少した。いずれの校種においても、継続的な取組が求められる。
- パフォーマンステストの実施回数について、高等学校では、科目毎の実施回数に伸びが見られないため、教科訪問等の機会を通じてパフォーマンステストの実施による生徒の学びの検証について指導を行う必要がある。中学校では、設定目標を上回り、学期毎生徒の「話すこと」「書くこと」の力を把握している。
- 教員の授業における英語使用状況については、高等学校で51.6%、中学校で83.6%である。昨年度と比べると、高等学校で減、中学校で増であった。ただし、いずれの校種も設定した目標値には届いていないため、継続的な取組が求められる。
- 英語担当教員に対する研修実施回数については、目標設定通りの実施回数が確保されている。特に小・中学校では、数値に含まれていないが、各地域での研修が頻繁に行われている。

#### ○令和2年度までの適切な目標

##### ①求められる英語力を有する担当教員の全担当教員に占める割合について

英語科教員に4技能を測定する英語検定など外部検定試験を活用して、自身の英語力を客観的に把握し、指導力の向上に努めるよう助言する。具体的には、外国語科担当の指導主事が、研究委員会や県内の学校を教科訪問等で、国が示す英語教育改革実施計画を含めた今後の英語教育の方向性と教員の英語力向上の必要性、更に外部検定試験を受検する意義について説明と周知を行う。

##### ②求められる英語力を有する生徒の全生徒に占める割合について

英語科教員の英語力の向上と授業改善が不可欠なため、①により教員の英語力の向上の周知を図るとともに、職員の研修を効果的に実施することにより現状の数値伸長を図る。具体的には、従来から取り組んでいる下記4項目を柱としつつ、学習評価について、充実させる。

1. CAN-DO リスト形式の学習到達目標の設定
2. 学習評価について
3. 単元設計の方法（指導法）
4. 学習に関する原理（言語習得理論等）

中学校においては、平成30年度より中学生英語力向上サポート事業として、中学校3年生に実用英語技能検定の検定料の補助事業を行っている市町村教育委員会に対して、補助額の2分の1を補助する取組を開始した。補助事業を行っている市町村教育委員会については受験率及びCEFR A1取得率が全県の平均より高く、一定の効果がみられる。

##### ③CAN-DO リスト形式で技能別に設定した学習到達目標の設定、公表及び達成状況について

CAN-DO リスト形式による到達目標の設定について周知はもちろんのこと、シラバスや年間学習計画、単元計画と連動させることにより、児童生徒の英語力向上に資するCAN-DO リストの在り方について理解を深める。具体的には、目標と評価及び指導の一体化のため、バック

ワード・デザインでの単元設計とルーブリックを利用した評価についての研修を実施し、CAN-DO リストの利活用の推進を図る。研修は、優れた実践を行っている県内英語教員や英語教育推進リーダー、外国語科担当指導主事が講師となって実施する。なお、令和2年度山梨県学校教育指導重点では、小・中・高等学校を通じて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔やり取り〕」「話すこと〔発表〕」「書くこと」の5領域を着実に実施し、コミュニケーション能力を育成することとしている。また、CAN-DO リスト形式による学習到達目標を基にしたパフォーマンス評価を計画的に実施し、総括的評価に生かすことを主な取組の指針とした。

④授業における生徒の英語による言語活動時間の占める割合について

中央研修実習修了者（英語教育推進リーダー）による公開研究授業を行い、児童生徒のコミュニケーション能力を育成するために効果的な言語活動を参観することを通して学び、授業での活用及び実践を求めていく。高等学校では、外部講師を招聘して、生徒の英語による言語活動を評価することに係る研修会を実施する。小・中学校では、児童生徒のコミュニケーション能力を育成するための効果的な言語活動を取り入れた授業の在り方について研修会を実施する。

⑤「話すこと」及び「書くこと」における英語表現の能力を評価するためのスピーキングテスト及びライティングテスト等のパフォーマンステストについて

パフォーマンステストについては、ほぼ全ての校種・学校で何らかの形で実施されているが、児童生徒に身に付けさせたい力を示す CAN-DO リストとの関連がないパフォーマンステストの実施や、評価基準（ルーブリック）が適切でない状況が散見される。こうした状況を踏まえ、研修会や指導主事による教科訪問等で、CAN-DO リストの意義と重要性、目標（CAN-DO リスト）と評価基準（ルーブリック）及び指導（言語活動）の一体化について CEFR を踏まえることを指導助言する。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況について

児童生徒が英語を使用する機会を充実させ、英語によるコミュニケーション能力を育てることが目的であるので、英語教育推進リーダーによる研修や公開授業を通して状況改善に資する。

⑦全小学校における相応の英語力を有する教員の割合について

山梨県総合教育センターと連携して、小学校教員の英語力向上に努める。また、本県では、公立学校教員選考検査において、英語に関する資格等の加点制度を導入している。制度の周知を図ることや県内の大学と連携することにより、高い英語力を有する教員の採用に努める。

⑧英語担当教員に対する研修実施回数及び受講者数について

悉皆での研修を含む本県の現状を踏まえた適切な研修を総合教育センターを中心に計画し、教員が十分な研修を受けられる体制を整える。

(3) 研修の体系と内容の具体

○研修の体系と内容の具体

●研修名

「指導改善に資する研修」

「英語指導力向上に資する研修」

「英語運用スキル向上に資する研修」

## ○研修対象者

小学校の外国語活動・外国語担当教員・中学校英語担当教員・高等学校英語教員・ALT

## ○研修目的・内容

令和2年度も継続して、「CAN-DO リスト形式の学習到達目標設定」「学習評価」「単元設計の方法」「学習に関する原理（言語習得理論等）」を研修の柱とし、この柱を組み合わせながら研修を進める。いずれの柱についても、単年度の研修のみで完了することはなく、進捗状況を各年度で確認しながら、スパイラルに研修を計画及び実施し、効果的に域内全域での教員の資質向上を図る。平成25年度までにCAN-DO リスト形式での到達目標の設定についての基本的な考え方などは浸透したと考えているが、この考え方や実践については小・中学校とも情報共有をしながら、令和2年度も引き続きCAN-DO リストの活用面に着目し、CEFR との連携や評価方法との関係性も含めて研修を実施していく。同時に、小・中・高等学校の連携についても研修・研究の内容に含めていく。バックワード・デザインに基づく「学習評価」及び「単元設計の方法」についても、評価の信頼性及び妥当性、様々な評価方法の在り方について理解を深めるための研修・研究を行う。学習に関する原理については、実践を支える理論に対する理解を深めるため、同様に研修・研究を行う。年度末には、高等学校では実践に係る好事例を総合教育センターHP に掲載し、成果の共有化を図る。

ALT については、10月に指導力の向上に資する研修を実施する。内容としては、参加者によるワークショップ、教材や指導案の持ち寄りによる研究協議などを実施する。

## ○受講予定者数

それぞれ70名程度

## ○英語力評価テストの実施

この研修と併せて実施する予定はない。

## ○研修の評価方法

研修終了後、参加者にアンケートを実施する。

## ○外部有識者と研修との関わり

外部講師を研修会に招聘する。研修に参加者には、指導改善として、授業実践を依頼し、その取組等を総合教育センターHPなどで共有する。

## ○年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	○研究委員の選出 ○学校訪問による学習会、授業参観及び研究協議（年間）	高校教育課 義務教育課
5月	○学校訪問による授業参観及び研究協議（～10月まで） ○第1回教育課程研究委員会 ○英語運用スキル向上に資する研修	高校教育課 義務教育課 教育委員会
6月	○英語指導力向上に資する研修会 ○第2回教育課程研究委員会 ○授業力養成講座	大学等外部講師、高校教育課 義務教育課 義務教育課
7月	○指導改善に資する研修 ○英語運用スキル向上に資する研修 ○授業力養成講座	大学等外部講師、高校教育課 義務教育課 教育委員会 義務教育課

8月	○教育課程研究協議会 ○第3回教育課程研究委員会	義務教育課、高校教育課 義務教育課
9月	○英語指導力向上に資する研修 ○授業力養成講座	大学等外部講師、高校教育課 義務教育課
10月	○英語運用スキル向上に資する研修 ○ALT指導力等向上研修 ○第4回教育課程研究委員会 ○授業力養成講座	教育委員会 大学等外部講師、教育委員会 義務教育課 義務教育課
11月	○英語指導力向上に資する研修会	大学等外部講師、高校教育課
12月		
1月		
2月		
3月		
<b>【その他の取組】</b> ・大学等外部講師を招聘し、英語ディベートにおける指導方法や実践についての研修会を検討する。		

都道府県 教育委員	山梨県教育委員会
--------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80.0	71.5	80.0	76.3	80.0		80.0		80.0		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50.0	37.3	50.0	44.7	50.0		50.0		50.0		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0		100.0		100.0	
			公表(%)	100.0	41.5	100.0	46.3	100.0		100.0		100.0	
			達成状況の把握(%)	100.0	58.5	100.0	68.3	100.0		100.0		100.0	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	65.0	56.8	65.0	50.9	65.0		65.0		65.0		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	○スピーキングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2.5	3.7	3.5	2.4	3.5		3.5		3.5
				コミュニケーション英語Ⅱ	2.5	1.1	2.5	1.9	2.5		2.5		2.5
				コミュニケーション英語Ⅲ	2.5	1.0	2.5	0.9	2.5		2.5		2.5
				英語表現Ⅰ	3.0	1.5	3.0	1.0	3.0		3.0		3.0
				英語表現Ⅱ	3.0	1.2	3.0	1.2	3.0		3.0		3.0
				ライティングテスト(回)	2.5	2.2	2.5	1.7	2.5		2.5		2.5
			○ライティングテスト(回)	コミュニケーション英語Ⅰ	2.5	1.5	2.5	1.8	2.5		2.5		2.5
				コミュニケーション英語Ⅱ	2.5	1.5	2.5	1.8	2.5		2.5		2.5
				コミュニケーション英語Ⅲ	2.5	1.2	2.5	1.3	2.5		2.5		2.5
				英語表現Ⅰ	3.0	2.0	3.0	2.5	3.0		3.0		3.0
				英語表現Ⅱ	3.0	2.6	3.0	2.4	3.0		3.0		3.0
				○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ								
	○ライティングテスト(回)	英語コミュニケーションⅡ											
		英語コミュニケーションⅢ											
論理・表現Ⅰ											3.0		
論理・表現Ⅱ													
論理・表現Ⅲ													
英語コミュニケーションⅠ											3.5		
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	英語コミュニケーションⅡ											
		英語コミュニケーションⅢ											
		論理・表現Ⅰ										3.0	
		論理・表現Ⅱ											
		論理・表現Ⅲ											
		英語コミュニケーションⅡ											
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	研修受講者数	200	234	200	149	200		200		200		
		研修受講者数	200	234	200	149	200		200		200		

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	30	30.9	32	31.6	35		38		41		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40	35.7	40	35.4	42		45		48		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	88.8	100	85	100		100		100	
			公表(%)	50	12.5	50	16.1	50		75		100	
			達成状況の把握(%)	100	68.8	100	82.3	100		100		100	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80	77	80	83.1	85		85		85		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3	2.7	3.0	3.6	3.0		3.0		3.0	
			ライティングテスト(回)	3	2.9	3.0	3.0	3.0		3.0		3.0	
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	76	80	83.6	85		85		85		
	⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	研修受講者数	6	6	6	7	6		6		6	
研修受講者数			100	225	100	273	100		100		100		

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)				100		100		100	
			公表(%)				50		75		100	
			達成状況の把握(%)				100		100		100	
②	小学校教員に対する研修実施回数	4	6	4	7	4		4		4		

